



# 浮かび上がる南西諸島 最大の津波の実態

琉球大学工学部  
教授 仲座栄三

6月22日 2015



著者 牧野 清

### 著者略歴

明 治 四 十 三 年	石 垣 高 小 学 校 卒 業
大 正 一 四 年	登 野 誠 尋 常 高 等 小 学 校 卒 業
昭 和 七 年	台 北 私 立 成 德 学 校 財 政 科 卒 業
同 年	台 南 總 督 府 文 官 普 通 試 驗 合 格
昭 和 一 四 年	台 南 總 督 府 國 庫 任 官
一 九 五 三 年	石 垣 市 總 務 課 長
一 九 六 五 年	石 垣 市 収 入 役
一 九 六 六 年	石 垣 市 第 一 助 役
一 九 六 八 年	『八重山の明和大津波』出版
一 九 七 一 年	八重山文化研究会会長
一 九 七 二 年	『新八重山歴史』出版
一 九 七 五 年	『登野城村の歴史と民俗』出版
所 属 学 会	南島考古学会・南島史学会・琉大史学会
住 所	沖縄県石垣市字登野城四一五―三

改訂増補

# 八重山の明和大津波

牧野 清 著



# 明和(1771)の大

乾隆<sup>けんりゅう</sup>36辛卯<sup>しんう</sup>3月10日五つ時分、  
右の地震止み、則ち東方なる神（雷）の  
所々で潮群れ立ち、右の潮一つに打ち合  
黒雲の様翻<sup>かえり</sup>り立ち、一時に村々へ三  
28丈、或いは20丈、・・・或いは2丈、  
大木（根）なから引き流され、・・・蔵  
獄、引き崩され、座番を始め・・・百姓  
流され失命し、或いは身体疵<sup>きず</sup>を負い、  
埋められ、髪手足を破り、或いは赤裸に  
に掛り海中を漂流する者もいたが、地船  
溺死<sup>でし</sup>させた者もいる。また、生き残  
老人・幼稚の者を背負い、山上へ逃げた  
の保養方もできなかった。余多の死骸が  
し、皆々周章していた折に、平得<sup>ひらえ</sup>村の  
宮良、白保、桃里村の内仲与銘、伊原間  
良部、都合8ヶ村は跡形もなく引き崩さ  
できない、と次々に緊急の知らせが入り  
中の騒動、言語道断の仕合（状況）であ

## 明和津波に関する古記録

2



明和津波に関する当時の記録は、この大波之時各村之形行書（おおなみのときかくむらのなりゆきしよ）と下の大波損傷次第（おおなみあがりそうろうしだい）の二つである。この記録は重複している部分もあるが、合せてはじめて全群島の完全な災害報告書となる。現在では虫害がひどく、すでに読めなくなっている文字もある。この八重山の明和津波の末尾には、その原文に振仮名を附してのせてある。

3



（八重山郷土史研究家喜舎場永均先生所蔵）





# 牧野が与えた津波石分布図



津波の遡上高さ  
85m を肯定的  
に取り扱う

牧野清(1968)  
八重山の明和大津波





桃里村の内、イナフ田という所に三間角の海石が二つある。ただし、この二つの石は俗にアマタリヤ潮荒と呼ばれ、元々仲与銘の内、アマタリヤという浜より三町程沖合(324m)にあったものだが、大津波によって根本から引き流され、浜から二町余(216m)の陸地に寄せあげられた。

一、桃里村之内いなふ田与申所ニ三間角之海石式ツ有ル  
但、此石式ツ共俗ニあまたりや潮荒与唱、元来仲与銘  
之内、あまたりや与申浜も三町程沖之方ニ有来候処、  
大波ニ根も引越し、浜も式町余陸ニ寄揚置申候





古文書に記載された元の位置か  
と推定、数値計算でもこの位置  
から流されたと推定される。





津波に起源するとは考えられない

明和の津波とは無関係

胴回り38m  
高さ 7m

などと当初推定される。

標高10m

沖縄先島津波 河名、1994

5 大浜崎原公園の津波大石（つなみうふいし）重量推定700噸（B型の石）

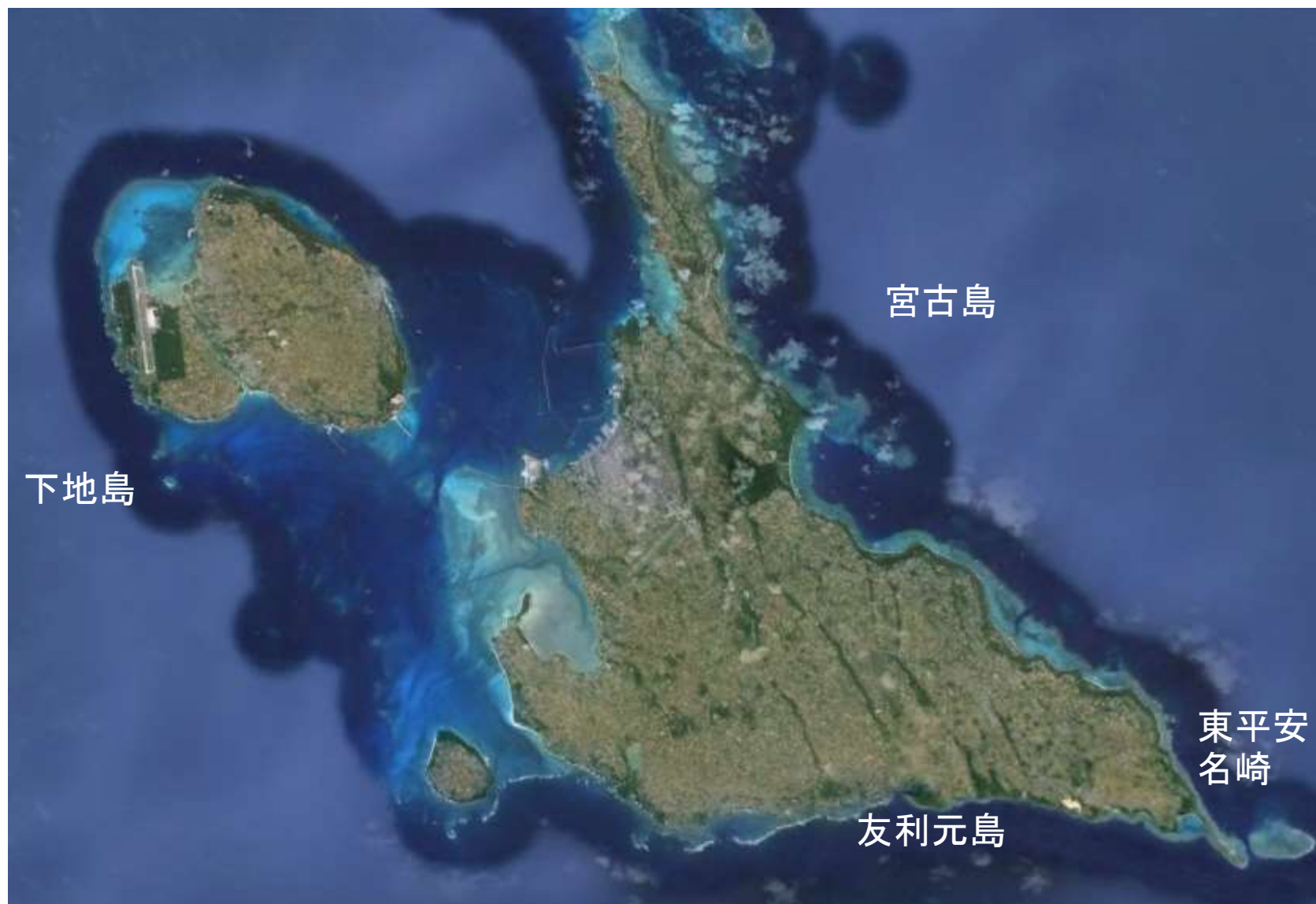
牧野清著 明和の大津波より





1km沖のリーフ先端  
沖より運ばれる。3  
回ほどの大津波の  
来襲が必要、加えて  
明和の津波があった  
と推測されている。

元の位置







12.6m

8.2m

洞回り 59m  
高さ 12m

標高10m

かような巨石はいかなる津波によっても移動しえない、と推定される。

# 宮古島東平安名岬に点在する巨大津波石群

標高20m

沖縄先島津波 河名、1994

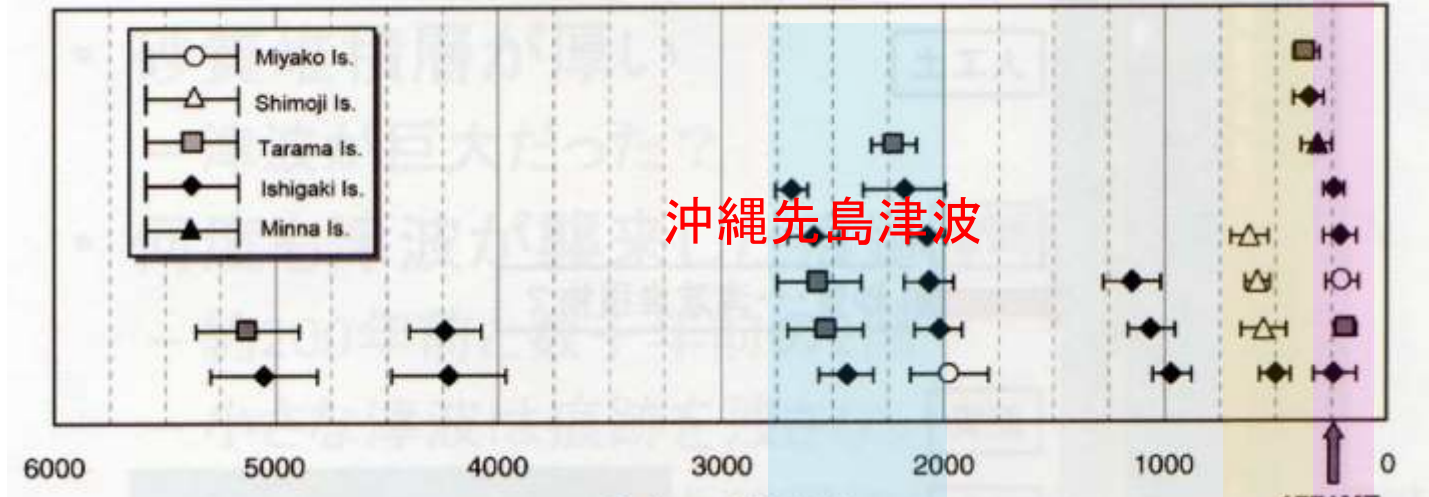
伝説の津波 下地、2007





Goto・Kawana・Imamura, 2010

河名ら、1994



津波石や付着サンゴ化石の $^{14}\text{C}$ を用いた  
年代測定値による津波発生年の推定  
数多くの大津波の発生を予測している。

## 大津波発生数回説





明和の津波以前に、大地震と大津波が発生した可能性が高いと推定される。



巨大な津波石

サンゴ化石年代測定結果

そして伝説は、

数々の大津波の発生を推測させる

その中で何れの津波が最大であったか？を明らかにする必要がある

2011年の後、仲座らの広域総合的調査が  
開始される。





例：伊良部 佐和田地区標高  
を代えてボーリングを実施  
その他、広域に調査

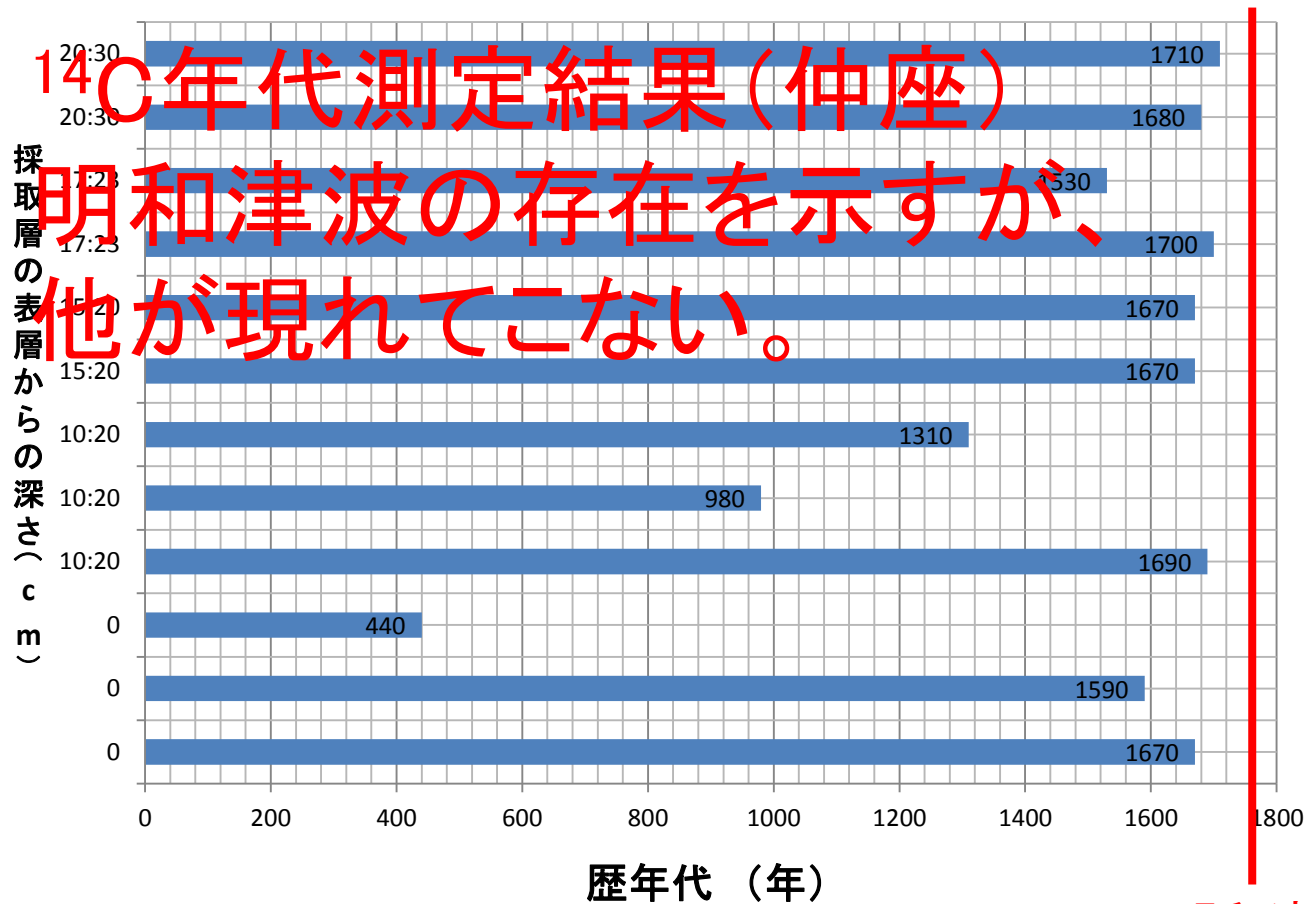






多くの層縞が存在、10回ほどの津波を予測させる。  
これまでの考え方！  
従来説に振り回される。

170cm





明和津波以前に発生したと  
推定される津波痕跡が  
見つからない

明和津波、ただの1つ？  
沖縄における最大の津波か？


過去の津波痕跡は明和津波が  
侵食し、消し去った。

津波痕跡は断続的であり、調査  
地点が痕跡を外している。

津波は必ずしも痕跡を残さない。

我々は、何を根拠としてきたか？




An archaeological excavation site showing a dirt wall and floor. A measuring tape is placed vertically on the left. A small, dark, round pot is shown in an inset image. The text "11-12世紀" is written next to the pot.

11—12世紀

少女（形質人類学的考察による）  
の発する強力なメッセージ





明和津波痕跡、1771年

11-12世紀

2000年間にもまたがって、堆積層が保存されている。その中で大津波の発生はただの1回、明和津波のみの痕跡が見出される。

無土器時代の包含層





ますます裏付けられる

明和大津波、ただの1つ説  
沖縄における最大の津波か？  
最大遡上高の見直しが必要